

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人愛知県文化振興事業団	
施 設 名	愛知県芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	25,662	(千円)
	公 演 事 業	21,771 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,891 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	概要		入場者・参加者数(人)	
		主な実施日程 主な実施会場	(演目、主な出演者、スタッフ等)	目標値	実績値
1	キッド・ピボット 『検察官ノリヴァイザー』 【劇場と子ども7万人プロジェクト】含む	2023年5月19日(金)	脚本：ジョナサン・ヤング 振付・監督：クリスタル・パイト 出演：キッド・ピボット ダンサー	目標値	882
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	987
2	勅使川原三郎新作ダンス『ワルツ』	2023年7月16日(日)、17日(月・祝)	演出・振付・照明・衣装・出演：勅使川原三郎/ダンス：佐東利穂子、ハビエル アラ サウコ	目標値	1,641
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	708
3	愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama 『Rain』 【劇場と子ども7万人プロジェクト】含む	2023年8月18日(金)	振付・演出：鈴木竜 出演：米沢 唯、中川 賢、ジョフォア・ポプラヴスキー、他5名	目標値	656
		幸田町民会館さくらホール		実績値	375
4	NHK 交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	2023年9月23日(土)	指揮：トン・コープマン フルート：神田寛明 管弦楽：NHK交響楽団	目標値	1,350
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	1,676
5	新国立劇場バレエ団 『ドン・キホーテ』	2023年11月3日(金・祝)、4日(土)	出演：米沢唯、速水渉悟/木村優里、渡邊峻郁	目標値	3,420
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	2,962
6	【ミニセレシリーズ】 ①「笠井叡×平山素子 J.S. バッハ作曲『フーガの技法』を踊る」関連企画笠井叡ダンスワークショップ「フーガの技法」をあなたと踊る、②「DaBY パフォーミングアーツセレクション 2023 トリプルビル目覚めの前のエクリチュール」、③サウンドパフォーマンス・プラットフォーム特別公演 安野太郎 ゾンビ音楽『大霊廟IV - 音楽崩壊-』、④ヌトミック+細井美裕 マルチチャンネルスピーカーと身体のための演劇作品『辿り着いたうねりと、遠回りの巡礼』、⑤第21回AAF 戯曲賞受賞記念公演「鮭なら死んでるひよこたち」	①2023年5月30日 ②2023年9月16-17日 ③2023年10月14-15日 ④2023年10月27-29日 ⑤2023年11月24-26日	①講師：笠井叡②出演・振付：島地保武、アリス・ゴドフリー、柿崎麻莉子ほか③作曲・作・演出・出演：安野太郎ほか④テキスト演出：額田大志、サウンド・演出：細井実裕、出演：長沼航ほか⑤戯曲：守安久仁子、演出：羊屋白玉、出演：神戸浩ほか	目標値	1,170
		①愛知県芸術劇場リハーサル室 ②③④⑤愛知県芸術劇場小ホール		実績値	764

7	<p>【オルガンシリーズ】 ①「THE オルガン NIGHT & DAY」【ファミリープログラム】、②「オルガン・アワー」【劇場と子ども7万人プロジェクト】含む、③「オルガン・プレミアム・アワー」【劇場と子ども7万人プロジェクト】含む、④「クリスマスはオルガンだ!」【劇場と子ども7万人プロジェクト】含む</p>	<p>①2023年5月2日・3日 ②2023年6月23日 ③2023年9月27日 ④2023年12月15日・16日</p>	<p>①出演：都築由理江、加藤恵利子 ②出演：石丸由佳③出演：マティアス・マイヤーホーファー④出演：新山恵理、杉本真木</p>	目標値	6,750
		<p>愛知県芸術劇場コンサートホール</p>		実績値	6,488

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	①舞台芸術インターソップ ②学生インターソップ及びお仕事社 ③劇場職員セミナー ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術コーディネートセミナー	目標値	750
		愛知芸術文化センター内、オンライン		実績値	1,079
2	アーティスト人材養成事業	通年	①オルガニスト養成 ②振付家・ダンサー養成 ③ワークショップファシリテーター等養成	目標値	100(+試演会別途)
		①愛知県芸術劇場コンサートホール ②愛知県芸術劇場リハーサル室 ③愛知芸術文化センターアートスペース、オンライン		実績値	74(+試演会131)
3	AAF 戯曲賞講座・シンポジウム	2024年2月29日(木)～3月3日(日)、3月7日(木)～10日(日)	①AAF 戯曲賞講座関連プログラム2024『戯曲/演出 集中キャンプ』 ②AAF 戯曲賞関連シンポジウム	目標値	100
		愛知芸術文化センターアートスペース		実績値	42
4	勅使川原芸術監督監修によるダンサー養成事業	2023年7月1日(土)・2日(日)、11月25日(土)	講師：勅使川原三郎	目標値	50(+試演会別途)
		愛知県芸術劇場リハーサル室		実績値	30

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価					
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>					
<p>当劇場のミッションは「つくる／みる／そだてる・つなぐ／ひろげる」活動を実施し、それによって地域に「こたえる」ことである。このミッション実現のため、『ものづくり』愛知発の『人（アーティスト・スタッフ・鑑賞者）づくり』と題し、下表のとおり、6つのビジョンを掲げ、ビジョン達成のためのプロジェクト①～④に紐づく事業計画を組み立てた。</p>					
ミッション	ビジョン	プロジェクト	番号	実施事業※	
こたえる	つくる	★高い芸術性を持つ作品の創造を行ない、地域の芸術水準を高める劇場 ★卓越した招聘作品を始めとした様々な公演により、地域において多くの人々が訪れる劇場	<①愛知から「つくる」プロジェクト>愛知から芸術文化の創造発信を行なう	公演2	勅使川原三郎「ワルツ」
				公演3	愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama「Rain」 《ミニセレ》DaBYパフォーミングアーツセレクション2023トリプルビル 目覚めの前のエクリチュール 《ミニセレ》SPP特別公演 安野太郎 ゾンビ音楽『大霊廟IV-音楽崩壊-』
				公演6	《ミニセレ》ヌトミック+細井美裕 『辿り着いたうねりと、遠回りの巡礼』 第21回AAF戯曲賞受賞記念公演「鮭なら死んでるひよこたち」
	みる	★芸術文化を生業にできる地域の人材と環境づくりに貢献する劇場 ★県内外の劇場をつなぐハブとして機能し、広域的な文化振興を図る劇場	<②愛知で「みる」プロジェクト>愛知において多様な芸術文化の鑑賞機会を提供する	公演1	キッド・ピボット『検察官／リヴァイザー』
				公演4	NHK交響楽団定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）
				公演5	新国立劇場バレエ団「ドン・キホーテ」
				公演6	《ミニセレ》「笠井勲×平山素子 J.S.バッハ作曲『フーガの技法』を踊る」関連企画笠井勲ダンスワークショップ
				公演7	《オルガン》N&D（【ひろげる】と重複）
				公演7	《オルガン》アワー
				公演7	《オルガン》プレミアム・アワー
	そだてる つなぐ	★舞台芸術により豊かな感性を育み、地域の次世代への継承・発展を図る劇場 ★芸術文化の力で地域における社会課題の解決に貢献する劇場	<③愛知の担い手を「そだてる・つなぐ」プロジェクト>愛知において芸術文化の担い手を養成し交流を促進する	人材1	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ
				人材2	アーティスト人材養成事業
				人材3	AAF戯曲賞講座・シンポジウム
				人材4	勅使川原芸術監督監修によるダンサー養成事業
	ひろげる		<④愛知の受け手を「ひろげる」プロジェクト>愛知における芸術文化の受け手を拡大する	助成 対象外	学校招待公演等・高校生以下無料招待（「劇場と子ども7万人プロジェクト」）、市町村・劇場との連携公演、ファミリー・プログラムの実施
	※共催、並び主催を除く				
<p>事業内容の変更はあったものの（「(3) 効率性」前段参照）、プロジェクトに沿った事業を計画どおり実施することができた。</p>					
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>					
<p>●【文化的意義】<①「つくる」プロジェクト>では、3事業6作品のダンス・演劇・音楽等のパフォーミングアーツ作品を創作し上演した。また6作品が札幌・高崎・東京・大阪・北九州・福岡と全国で再演（改定再演含む）、新しいパフォーミングアーツの発信に寄与した。1作品は香港文化センターのニュービジョン・アートフェスティバルで再演され我が国の高い文化芸術水準を示す機会となった。</p>					
<p>●【社会的意義】<①「つくる」プロジェクト><②「みる」プロジェクト>で、良質な公演を鑑賞する機会を広く提供することができた。公演3『Rain』は、昨年度創作したダンス・美術・音楽のコラボレーション作品を県内の市町村劇場にて上演するプログラムで、鑑賞者全体の25%以上が25歳以下と若い世代にとっても刺激的な公演にできた。<③「そだてる・つなぐ」プロジェクト>では、名古屋市文化振興事業団等と連携しての人材養成事業を実施し、地域の芸術文化振興に貢献できた。</p>					
<p>●【経済的意義】<②「みる」プロジェクト>で、公演1キッド・ピボット「検察官／リヴァイザー」や公演5新国立劇場バレエ団「ドン・キホーテ」、公演4NHK交響楽団定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）は関西以西の公演が無かったため関西方面からも来場者が訪れた。</p>					

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

目標達成状況は下表のとおり。

公演事業							
プロジェクト	目標		指標		目標	R5実績	達成度
①愛知から「つくる」プロジェクト ～愛知から芸術文化の創造発信を行なう	①-1	劇場プロデュース作品を製作するとともに、国内外で再演する	①-1	劇場プロデュース作品初演+再演数	20公演	22	110%
②愛知で「みる」プロジェクト ～愛知において多様な芸術文化の鑑賞機会を提供する	②-1	良質な作品上演によって、鑑賞者さらにはファンの増加を図る	②-1-1	自主事業公演入場者率(公演事業)	75%	62.8%	84%
			②-1-2	自主事業公演リピーター率(ファミリープログラム除く)	45%	53.0%	118%
			②-1-3	自主事業来場者満足度	95%	93.9%	99%
			②-1-4	自主事業等に関する広報・広告数	500件	522	104%
②-2	多様な作品上演に対応するため、劇場のホスピタリティ向上を図る	②-2	利用者満足度調査(貸館)：毎年5.4点以上	5.4点	5.2	96%	

指標②-1-1を除き、目標を達成率は95%を超え、いずれのプロジェクトにおいてもビジョン達成に必要なアウトカムを出すことができた。特に、指標①-1と②-1-2は目標を10%以上超えたことから、ビジョンの中でも、「高い芸術性を持つ作品の創造を行ない、地域の芸術水準を高める劇場」「卓越した作品招聘を始めとした様々な公演により、地域において多くの人が訪れる劇場」というビジョンを概ね達成したといえる。

【人材養成事業】

目標達成状況は下表のとおり。

人材事業							
プロジェクト	目標		指標		目標	R5実績	達成度
③愛知の担い手を「そだてる・つなぐ」プロジェクト ～愛知において芸術文化の担い手を養成し交流を促進する	③-1	舞台芸術に携わる多くのスタッフ・アーティストに最先端の知識・技術を伝え、さらに人的なつながりを生み出す場を提供する	③-1	人材養成事業参加者数	1,000人	1,460	146%
	③-2	国内外の劇場と事業を共同で実施し、ネットワークを形成する	③-2	事業を共同で実施(共同制作・招聘、巡回公演等)する劇場等(劇場・団体等)の団体数	25団体	37	148%

すべての指標を大幅に超え、プロジェクトの目標を達成することができた。いずれの指標も達成率が40%を超えており、当劇場が「芸術文化を生業にできる地域の人材と環境づくりに貢献する劇場」「県内外の劇場をつなぐハブとして機能し、広域的な文化振興を図る劇場」というビジョンを達成したといえる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成事業の下記の2事業を除いて、要望時の計画どおり適切に進めることができた。計画変更の理由は助成金収入の全体が要望時より大幅に減額したこと、人材養成事業で実施内容がやや曖昧な事業があったこと、人材養成事業は収入見込み金額が大きくなり事業を一部変更しても収入に大きな影響は出ないと考えたことから、人材養成事業の計画を大きく見直した。

(1) 人材養成3 AAF 戯曲賞講座・シンポジウム（変更前：第23回AAF戯曲賞募集・選考）

過去の審査員から作品の創作過程に対する判断基準があいまいなままで良いのか、審査方法や審査過程の公開方法などを再考する必要があるのではないかという意見をいただいたことから、本年度は募集は行わず、過去の審査員や受賞者によるシンポジウム、劇作家を目指す方のための講座などを開催した。結果、参加者から「大変意義深いものだった。今後も続けてほしい」等の意見を多数いただき、「舞台芸術により豊かな感性を育み、地域の次世代への継承・発展を図る劇場」というビジョンの達成に近づくことができたと考えている。

(2) 人材養成4 勅使川原芸術監督監修によるダンサー養成事業

勅使川原芸術監督とダンサー養成を地域に定着し継続させていくための方策を検討し、予定していたショーイングは実施せず、ワークショップを充実させる方針となった。結果、参加者から「今後の稽古に活かしたい」「とても学びが多かった」等の好意的な意見をいただき、「舞台芸術により豊かな感性を育み、地域の次世代への継承・発展を図る劇場」というビジョンの達成に近づくことができたと考えている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

収支結果は下表のとおり。支出について、前段の理由による変更のため、全体として当初の計画より20%以上の減額となった。一方収入の増減率は10%の減額にとどまった。事業によっては50%以上の減率になっており、今後はより適切な計画を立てていく。

番号	事業名	支出（助成対象経費）		増減率	収入		増減率
		要望	決算		要望	決算	
公:1	キッド・ピボット『検察官ノリヴァイザー』	15,919,000	10,991,574	69%	5,416,100	5,599,600	103%
公:2	勅使川原三郎新作ダンス『ワルツ』	20,219,000	13,298,704	66%	6,351,300	2,224,530	35%
公:3	愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama『Rain』	12,428,000	9,209,330	74%	1,938,600	927,700	48%
公:4	NHK交響楽団定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）	14,046,000	12,979,925	92%	11,737,200	13,921,100	119%
公:5	新国立劇場バレエ団『ドン・キホーテ』	41,625,000	35,334,877	85%	39,626,000	36,020,143	91%
公:6	【ミニセレシリーズ】	21,108,000	23,356,430	111%	3,390,000	1,830,100	54%
公:7	【オルガンシリーズ】	8,123,000	5,087,150	63%	7,905,000	7,832,878	99%
人:1	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	2,000,000	1,569,679	78%	67,500	34,000	50%
人:2	アーティスト人材養成事業	2,000,000	980,351	49%	237,000	433,000	183%
人:3	第23回AAF戯曲賞募集・選考	2,902,000	1,621,604	56%	0	30,000	-
人:4	勅使川原芸術監督監修によるダンサー養成事業	5,091,000	341,360	7%	0	180,000	-
	合計	145,461,000	114,770,984	79%	76,668,700	69,033,051	90%

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

R5年度の当劇場の資源としては、**勅使川原三郎芸術監督**（在任4年目、最終年）、**都築由理江劇場オルガニスト**、Dance Base Yokohama (DaBY) との協定により DaBY でクリエイションを行い当劇場で上演する**鈴木竜**、**小尻健太**、**柿崎麻莉子**、**島地保武**、**環 ROY**のほか、**館長**、**プロデューサー**、**舞台技術者**など劇場に勤務する**専門性の高い人材**が挙げられる。また地下鉄駅から徒歩3分の**好立地**、特性・機能の異なる3つの劇場、愛知県内の市町村劇場や国内外の劇場との**強いネットワーク**、近隣を拠点とする劇場に関わりある**アーティスト**も資源と考える。これらを有効に活用し、質の高い作品を創作するとともに、招聘、鑑賞者の拡大、次代に続く人材養成すべてで成果があった。

【公演事業】

勅使川原芸術監督による新作ダンス公演『ワルツ』は、大ホールの後舞台までを舞台装置なく照明のみで、たった3名のダンサーで使い切った新規性に富んだ作品で、鑑賞者に大きな驚きと強い印象を与えた。【ミニセレシリーズ】**愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama『Rain』**は、ダンスの鈴木竜と美術、音楽のアーティストがコラボレートした独創性のあるプロジェクトで、昨年度の初演をさらに練り直し完成度を高めて県内の市町村劇場で再演するプログラムで若い世代にとっても刺激的な公演にできた。小尻健太、柿崎麻莉子、島地保武、環 ROY ほかによる作品のトリプルビル「**パフォーミングアーツ (PA) ・セレクション 2023**」は、異なるタイプの新作ダンス作品3つを組み合わせ身体表現の多様性を示すプログラムにできた。以上の公演は**早くも再演の機会**を得た。

「ワルツ」アパラス版が勅使川原芸術監督の拠点スタジオで上演。『Rain』は、新国立劇場、北九州芸術劇場のほか、香港文化センターのニュービジョン・アートフェスティバルで再演し大きな反響を得た。「PA セレクション」の3作品は昨年までに制作した作品と組み合わせ、高崎芸術劇場・高槻城公園芸術文化劇場・東京芸術劇場で上演された。「ミニセレ」シリーズでも、「PA セレクション」ほか、4事業で新しい作品を創作上演した。**第21回AAF戯曲賞受賞記念公演「鮭なら死んでるひよこたち」**は、愛知県拠点の俳優の神戸浩ほかが出演、劇場舞台技術スタッフも関わって当劇場で創作・初演した後、福岡・札幌で再演し、例年より多くの鑑賞者から好評を得た。**サウンドパフォーマンス・プラットフォーム特別公演**は、愛知県立芸術大学准教授の安野太郎による、ほかに類を見ない形の音楽系作品として専門家から高い評価を得た。**ヌトミック+細井美裕 vol. 2**は演劇に音響インスタレーションを組み合わせた実験作品で、細井美裕がウェブマガジン「サウンド&レコーディングス」

(2023. 12. 1) に貴重な挑戦の場として創作過程を掲載し反響があった。これらの創作と再演は、**芸術文化を創造・発信する劇場としての愛知県芸術劇場の認知度向上、ブランディング**に繋がった。大ホールでの国内外からのダンス招聘公演（**キッド・ピボット「検察官/リヴァイザー」**、**新国立劇場バレエ団「ドン・キホーテ」**）や**NHK交響楽団定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）**は地域の拠点劇場としての幅広いニーズに応え、**オルガンシリーズ**は入門者から熱心なファンまでを対象として、延べ6,000人以上の多数の観客を集め、定期的かつ継続的に開催することで、着実に舞台芸術鑑賞の場を提供した。

【人材養成】

芸術監督監修ダンサー養成は限られた時間で身体感覚とともにダンスや芸術に対する考え方を学ぶ好機となった。**そのほかのダンサー養成事業**は異なる講師による6種類のワークショップを行い、多様なダンスメソッドを学ぶ貴重な機会となった。**オルガニスト養成事業**は4人が昨年度以前からの継続受講者で、回数を重ねることで受講者のスキルアップにつながっている。**舞台芸術人材養成ラボ**は対象別の5つの事業から構成していることが特徴で、昨年度より受講者数が増えており、地域のニーズを捉えていると言える。第23回AAF戯曲賞募集・選考は、戯曲賞について再検討する時期に来てしていると判断し**AAF戯曲賞関連講座**に事業内容を変更して実施したが、結果的に受講者各自が自ら戯曲や演出について考える濃密な講座となり、次代の戯曲について考えさせる充実した内容にできた。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【公演事業】

(1) 受賞歴

サウンドパフォーマンス・プラットフォーム特別公演 安野太郎 ゾンビ音楽 『大霊廟Ⅳ -音楽崩壊-』が、「第23回佐治敬三賞」（サントリー芸術財団）を受賞。国内チャレンジ精神に満ちた企画かつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られる賞で、審査委員からは「演奏会という枠をダダイズム的なシアターピースによって打破しようとした」という評価もあり、地方から国内における音楽の発展に寄与した。

(2) 専門誌・関係者及び来場者による評価

安野太郎 ゾンビ音楽 『大霊廟Ⅳ -音楽崩壊-』が掲載された26件の記事をはじめ、2023年度の広報掲載は計522件の広報結果となった。以下、地域に効果を与えた・発展につながった項目。

①朝日新聞（関西版）・朝日新聞DIGITALによる評価

【公演名】第21回AAF戯曲賞受賞記念公演 『鮭なら死んでるひよこたち』

「地方都市で作った舞台作品が各地を巡演しているしかも東京や関西の大都市圏では上演しない。いわば「地方発、東京スルー、全国行き」は文化芸能の新たなうねりとなるか」と、地方から芸術文化を発信することに期待が寄せられた（2024.2.22朝日新聞DIGITAL）。本公演は、北海道新聞にもレビューが掲載され「地域の才能が連携して作った意欲的な舞台」（2024.3.8赤木国香）と評された。

②来場者及び関係者による評価

【公演名】愛知県芸術劇場 × DaBY ダンスプロジェクト 鈴木竜 × 大巻伸嗣 × evala 『Rain』

（市町村劇場の担当者）からは「今回開館28年目にしてコンテンポラリーダンスを初めて開催し、新しい取り組みができた。当該劇場の固定ファンも“はじめて観て凄かった”や“この機会にコンテンポラリーダンスを知った”など、関心が高かった。また、広報においては、地方では芸術文化が、新聞に取り上げられる機会は限られているが、今回は朝日・中日新聞の2社に掲載された。今後このような公演の機会があれば、開催を検討していきたい”などの意見が挙がった。また、来場者アンケートからは“言葉では言い表せないくらいすごかった（10代）”や“コンテンポラリーダンスを継続的に催して欲しい（40代）”などの意見もあり、市町村劇場におけるダンス事業の拡大の可能性と需要増につながった。

③地元の音楽の専門家・愛好家から評価を得ている会報誌「名古屋モーツァルト協会通信」による評価

【公演名】オルガンNIGHT&DAY2023

「コンサートの入門者向けの本公演では、公演デビューの小さな子供たちに鑑賞中の座り方や感情を出してもいいけどおしゃべり禁止などを伝えたことで、マナーが良く守られていた」（2023.6.11 105号）と評され、地域の鑑賞マナー向上につながった。近年劇場や映画館でのマナーを訴える声も多い中、地域の方が幼少期から劇場に慣れ親しむことで、感覚をつかむきっかけになった。また、「鑑賞マナーブック」を配布し、さらなる向上に努めていた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【事業運営】県関係団体の経営改善計画や指定管理者として毎年度行なっているモニタリング調査、利用者満足度調査等により、サービス向上や事業運営の改善に努めた。また、設置者かつ最大のステークホルダーである愛知県が、また当財団をR1～5年度までの5年間を期間とする指定管理者として任意指定（三度目）していることから、県は劇場・当財団の事業運営を評価し、持続・発展することを認めているといえる。

【経営戦略（財務）】（一財）地域創造、大使館等からの補助金や協賛金の獲得による財源の確保を継続的に続けた。また、上述のとおり、当財団はR1年度から5年間指定管理者として任意指定されていることから、県の劇場への持続的な財政支援（指定管理料収入）が裏付けられている。さらに当劇場の利用率は平均80%超の水準を保持しており、利用者からはハード面は勿論ソフト面を含め丁寧にニーズを聞き取る劇場運営に対する高い評価を得ている。さらなる安定的な財源確保に向けた戦略として、チケットの団体購入の促進や外部資金獲得に努めた。特に「賛助会員制度」については、R3年度からは制度を整え本格的に募集を開始し、R5年度は15法人に賛同をいただいた。今後多くの法人・個人の皆様に劇場事業を支援いただけるよう、引き続き地元企業等を中心に働きかけを進めていくことで、持続的な収入確保が見込まれる。

【人事戦略（人材）】当財団の策定した「人材育成計画（H27年度策定）」に沿ってOJT・Off-JT・自己啓発支援・ジョブローテーション及びフォローアップを組み合わせて体系的に行ない職員的能力向上の取組くんだ。特に外部研修（Off-JT）を計画的に実施することで、より多くの職員がより高いスキルを備えられるよう促進した。また、専門性が求められるポジションについては県派遣職員からプロパー職員への転換を進めており、昨年度は県派遣職員のポスト1枠をプロパーに転換した。さらに、人材の定着に関しては、職員の無期転換（R4:3名→R5:7名）を行なう等、労働環境の改善につなげている。

【ネットワークの構築】名古屋市文化振興事業団（H29年度～）、Dance Base Yokohama（R3年度～）との連携協定の締結継続、県内市町村劇場との共同招聘・共同制作等による事業連携や民間を含めた県内外の劇場との定期的な情報共有、国内の芸術文化団体役員への就任、さらにはプロデューサーらの海外調査（海外からの招聘による見本市への参加を含む）やAAPPAC（アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟）への加盟等、国内外の関係者との積極的な連携・交流を通じネットワークの構築・強化を行っている。

以上のように各視点から組織活動の強化・発展に努めるとともに、下記の **PDCA サイクル**によりプロジェクトを推進した。今後も継続していくことで、持続的に発展すると認められる。

P=企画会議（隔週実施。プロジェクト及び中長期計画を踏まえプロデューサーらによる企画の提案・検討及び決定する。）

D=公演等の事業実施（実施にあたっては、制作連絡会議（毎週実施）にて関係者が密に情報共有し、実施にあたって必要な調整を行なう。また統一フォーマットで公演概要資料をまとめ、当日運営にあたり漏れ落ちのないよう留意する。）

C=企画・芸術面の評価会、実施運営面の相互理解シート、役職者と共有する年間評価の3構成での評価
企画・芸術面の評価会観客アンケート、出演者・スタッフの声、入場者数、予算・決算、広報結果等の実施結果を統一フォーマットの評価シートにまとめ、担当から役員まで関係者全員が一堂に会し、事業がプロジェクト達成にどのように働いたか、定量的・定性的な評価とともに課題についてディスカッションすることで、次回への改善を行なう。

A=企画等の見直し

企画・芸術面の評価会で議論された課題を踏まえて、次回企画会議に諮る。